



2011年11月21日  
NO、471

〒561-0874

豊中市長興寺南3-5-2

TEL (06) 6865-3190 FAX (06) 6865-3191

Eメール zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp

Webページ

http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/

# とよなか

全教豊中教職員組合

## 2012年度 対市交渉

### 『教育基本条例案』

「賛成しかねることが多々ある。」

(渡辺教育推進部)

教育基本条例案、職員基本条例案に反対すること。

度は守られるべきだと考えている。

(林人事チーム長)

人事権移譲問題について懸念される諸問題については事前協議を誠意をもってつくること。

○結果の公表は考えていない。開示はしないが、絶対評価では、CやDはあり得ない。今後危惧される点は、認識している。

○近畿教育長協議会が豊中で開かれ、中西府教育長が「反対です。」と発言。全員が拍手で応えた。

(山元教育長)

○恣意的な人事はあってはならない。

創立記念日については、超勤の疲労回復日として措置すること。

○学習応援団に來た学生を優先的に採用する考えはない。

○今後、協議していきたい。

○学校運営上、困難が予想されるので賛成しかねることが多々ある。

(渡辺推進部長)

○教育委員会制

教職員の「評価・育成システム」については即時中止すること。豊中市におけるS・A・B・C・Dの割合を公表すること。

従前どおり障害種別による支援学級を存続させること。また、大阪府に重度重複加配の復活を強く要望すること。

教 え 子 を 再 び 戦 場 に 送 る な !



# 学者文化人 立場超えアピール 「大阪府教育基本条例案に反対します」

尾木ママが「100人村」の池田香代子さんが女優 竹下景子さんが「イチャモン」先生の小野田さんが金八先生の脚本家 小山内さん

## アピール全文

私たちは、「大阪維新の会」が大阪府議会に提案している教育基本条例案について、大阪にとどまらず日本社会全体にとって見過ごせない問題であると考え、このアピールを発表することにしました。

私たちは何より条例案が、学校教育を知事及び議会の虚構的な支配下に置こうとすることに強い危惧を覚えます。条例案によれば知事は、「学校における教育環境を整備する一般的権限」をもち、府立学校に對しては「教育目標」を認定する権限まで認められています。さらに、知事の目標に服さない教育委員の罷免、教職員への厳しい処罰などの教育への権力統制の体系が盛り込まれています。

人間を育てる教育には、教える者と教えられる者との、自由な人間どうしの魂の交流が不可欠です。また、子ども一人ひとりの個性に即した、教員や保護者、子どもを変える多くの人々の知恵と情熱が重宝されなければなりません。知事や議会が教育上何ら正しいかを決定し、それに具蔽をとらえる者を排除していくことは、教育の方を要（な）えさせ、子どもたちから伸びやかな成長を奪うものです。

しかも、学校教育を知事や議会の虚構的な支配下に置くことは、憲法と法令に抵触します。教育基本法第16条は「教育は公平な支配に即することなく」としています。この文言は、時の権力が国民を教育をすすめた過去への深い反省のうえに定められた、日本の教育の大原則です。その結果、地方の教育行政は首長が直接監督する一般行政から分離され、教育委員会がつくられました。

教育委員会の実態やその行政に不十分さがあることは私たちも知っています。しかしその解決は、教育委員会の民主的な改革に求められるものであり、知事による虚構的な支配となれば不十分さはますますばかりです。

私たちはさらに、「維新の会」の政治的な手法に危うさを感じています。いったん選挙に勝ったことによって、あたかもすべてを選挙民から白紙委任されたように振る舞うことは、ファシズムの独裁政治を想起させるをえません。

多くの力があわれ、大阪府教育基本条例案やそれに類する計画を止め、子どもの伸びやかな成長のために考えあい話しあい、できることから行動していくことを訴えます。

東京大学教授の佐藤学、小森陽一、小森陽一の両氏は17日、「大阪維新の会」が府議会に提出している大阪府教育基本条例案に反対するアピールを発表。アピールは両氏のほか、十人が呼びかけたもの。

会見には教育評論家の尾木直樹氏もビデオでメッセージをよせました。

【よひかけ人】  
池田 香代子（翻訳家）  
市川 昭午（元中教審委員）  
尾木 直樹（教育評論家）  
小野田 正利（大阪大学教授）

小森 陽一（東京大学教授）  
佐藤 学（東京大学教授）  
高橋 哲哉（東京大学教授）  
竹下 景子（女優）  
野田 正彰（関西学院大学教授）  
藤田 英典（日本教育学会会長）

【賛同者】 浅田 次郎（作家） あさのあつこ（作家） 安斎 育郎（安齋科学・平和事務所所長） 石坂 啓（漫画家） 内田 樹（神戸学院大学名誉教授） 小山内 美江子（脚本家） 杉 良太郎 妹尾 河童（エッセイスト） 田島 征彦 森 南海子（服飾デザイナー） 11月17日現在58名

と

# 今、池田で起こっていること

## 前市長のもと、小学校7校の統廃

池田市では、6月に「小中一貫教育」の名で、学校統廃合案を発表しました。小1プロブレムや「中1ギャップ」を解消するため、「小中一貫教育」を進めるとして、突如の統廃合案に市民から猛反発。9月議会に、白紙撤回を求め、5団体の病願が提出され、文部省が委員会で審議の結果、「教育委員会の説明は不十分」との見多数学で、継続審議になってしまいました。

しかし、10月広報では、特集「小中一貫教育のさらなる発展に向けて」と、学校施設再

編整備計画を紹介し、地域説明会の開催も掲載。10月18日、地域説明会の初日に参加してきました。教育部長をはじめとした面々が整列して、「教育委員会事務局をあげて」の説明会。小学校の先生方も20名、市議会議員、子ども連れの参加で、50名以上。部長挨拶のあと、次長がパワーポイントを使い、30分間の「義務教育に関する制度の見直し」に関する小中一貫教育とは？「なぜ小中一貫教育でねらうものか」という具体

的方策」等々、長期計画として、施設一体型小中一貫校をめざすことを説明。そのあとの質疑応答は、30分間の延長。保護者からは、「立派な説明、きれいごと」「まず小中一貫ありきでは？」

「生徒数1500人を越えて適正規模？」

「今の小学校の規模でも目が行き届かない。運動会が見えないのに」

「グラウンド1つ、体育館もプールも1つでやっていけないの？」

「中学生のクラブ活動で小学生は放課後遊べ

ない？」

「本当の目的は経費削減？」

等々の多くの質問と反対意見が出されました。帰り際、若い保護者が「幼稚園の時と一緒やね」（池田市では7年前に11園あった幼稚園が4園に統廃合され、園児はスクールバスで通っています。）と話していたのが印象的でした。

財政効率化で、教育を犠牲にすることは大問題です。大阪府の「教育基本条例案」と考えを同じくするよう、効率だけを考えた教育行政政策には反対しています。

（箕輪小・廣嶋）

